

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、グループホームの理念は常に職員が出勤時に目視できるように掲示している。それに基づき日々の介護の振り返りを行い、実践につなげられるよう努めている。	理念、グループホーム目標については目につき易い事務所のタイムカードの上に掲示し共有に努め、利用者の支援に迷った時には振り返りの時間を持ち、利用者優先の支援に取り組んでいる。家族に対しては入居時にパンフレットを用いて理念に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前から交流のあるボランティアの方々と利用者の方々との直接の交流は出来ていないが、折り紙の作品や梨を届けてくださるなどご協力を頂いている。	開設以来自治会に加入し協力費を納め村の避難訓練や商工会のお祭り等に参加していたが、今年度も新型コロナの影響を受け中止となり残念な状況となっている。また、各種ボランティアの受け入れも自粛状態が続き、年賀状のやり取りを通じ関係の継続に努めている。アコーディオン演奏のボランティアの方から果物の差し入れを頂いたり、また、折り紙ボランティアの方には利用者が季節ごとに作る折り紙の指導をブログを通じて行っていた。新型コロナ収束後には地域行事への参加やボランティアの受け入れを再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村が主催の初期集中支援チームに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会は開催できていないが、利用者の近況報告は、文書にし郵送している。	新型コロナ感染拡大の影響を受け現在は書面での開催となっている。利用状況、生活の様子、ワクチン接種状況等を書面にし、家族代表、区長、民生児童委員、村民生活課、地域包括支援センターに届け、意見を頂くようにしている。新型コロナが収束し対面での会議が開催出来ることを待ち望んでいる。また、書面作成にあたり行事報告等内容の充実を図るべく検討を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高山村福祉課担当者や地域包括、高山村社協とは、グループホームの空き状況、待機順番など連絡を取り合って情報交換を継続している	村福祉課とは新型コロナ感染対策等についてきめ細かく連携を取り進めている。また、地域包括支援センター、村社協とも利用状況、ホームの空き情報等で連携を取っている。介護認定更新調査は須坂市、小布施町、高山村の調査員がそれぞれ来訪し職員が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束予防委員会を開催し、身体拘束及びその予防のための正しい知識を共有し、またその時々利用者の状況を事例として挙げケアの検討を行い、その実践に取り組んでいる。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は自動ドアで安全確保のためドア上部のタッチ式の物を使用している。外出傾向の強い方がいるがコロナの状況を話したり外を散歩することで対応している。また、転倒危惧のある方が半数おり家族と相談の上人感センサーを使用している。職員は3ヶ月ごとに開かれる身体拘束適正化委員会の中で拘束に対する知識を高めると共に拘束に対する月毎のテーマを決め議事録を作成し、読み合わせを行い、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画に基づいた研修を行った。 「人格を貶める行為」が虐待と認定される事例に基づいた研修を全職員が受け、日々の介護の振り返りを行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、ご家族や利用者からの相談はないが、いつでも質問に答えられるように、知識をつけておく努力をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初めての施設利用者に対しては、ご家族やご本人にわかりやすい説明をし、理解と納得を得られるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに短時間で様子報告や意見を聞いている。必要な情報は職員間で共有をしている	コロナ禍が長引き家族との面会は窓越しでの面会を基本として行い、気候の良い時には散歩をしながらの面会も行い家族との関係が途切れないようにしている。また、ホームでの生活の様子はスマートフォンを用い写真も含めきめ細かくお知らせし、希望があればUSBに記録として纏め家族に渡すようにしており好評を得ている。そのような中、誕生日、敬老の日、母の日、父の日には花やケーキ等のプレゼントが届けられている。新型コロナが収束し以前のようにホームの行事に家族が参加できるようになることを待望している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の開催が困難な状況であり、情報に関する事は、連絡ノートでの共有をしている。各職員から出た意見、提案は、それぞれの担当者が管理者へ報告、相談する体制をしている	新型コロナ禍が続くため密を避けるため全体での職員会議は現在行っていない。日々の申し送りや連絡ノートで連携を取り合い情報を共有し、特に大切な事項については担当者、管理者に報告され日々のきめ細かな支援に繋げている。法人の人材育成チームが中心となり新人職員の育成に取り組んでおり、技能実習生が配属される予定になっている。また、法人として職員対象のストレスチェックが行われメンタルケアにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数が長い職員は、隣接施設への異動を行い、リーダーとして活躍できるよう人材育成を目的とした異動を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接施設での介護職員を対象にした研修会に参加し、伝達研修を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	物忘れ支援ネットワークの研修会にリモート参加した。今年度は当グループホームが事例提供を行い、多職種での話し合いを行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談実施に努め、利用者が安心して入居していただけるよう努めている。入居されてからも不安や不快など感じられていることの速やかな把握、対応に努め信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	高山地区のケアマネ会議を週1で実施している。申し込み者や利用者の状況など情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族から今後の希望を聞いている。特養への入居を希望される方は申し込みをしてもらい住み替えのタイミングを調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を大切に、今までされてきた日課や楽しみとされてきた趣味を把握した上で、利用者が暮らしの中で役割を持つことができるよう対応に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は窓越しを継続している。ご家族の理解はあるが利用者の理解は困難な場合が多いが窓越しで誕生日を祝う家族もいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話をお持ちの利用者が3名いらっしゃる。携帯電話でご家族やご友人との交流を継続されている。操作に迷われる様子もある。気兼ねなく携帯電話でのやり取りが継続できるよう対応しながら必要に応じ操作のお手伝いをしている。	地域の友人の方が窓越し面会に来訪し、交流の時間を持つことができている。携帯電話持つの方がおり家族と連絡を取り合っている。引き続き年末には手作り年賀状を家族に出す予定がある。また、おやつ、本、化粧品、下着等、利用者の希望の物は職員が代行して買い求め、希望に沿えるようしている。理美容についてはコロナ禍の状況下で職員が行ってきたが、最近、久々に馴染みの美容師が来訪しカットをしていたという。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前よりお知り合いである利用者もいらっしやる。今までの関係性を踏まえながら、施設での暮らしの中でも支え合う関係を築くことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内に住み替えをした利用者の情報は、法人内の会議で報告があるため、必要に応じて連絡をし、近況のお話をする事をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のご希望や想いを伺いながらそれに沿った暮らしを送ることができるよう支援に努めている。 困難な場合、ご家族へご相談しご本人本位の支援を提供できるよう努めている。	殆どの利用者が自分の思いを伝えられることができる。難しい方も数名いるが話を伺うタイミングを図り、居室やお風呂でゆっくり時間を取り昔話等をする中で表情等から希望を汲み取り意向に沿った支援に繋げている。そのような中、気づいた言動等はケース記録に纏め担当職員に繋げ、申し送りで情報を共有して思いを受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前サービス事業者からの情報提供によりそれに沿った生活環境の整備に努めている。 またできる限り入居前に利用者の生活されている場所へ伺い、ご本人が馴染んだ生活環境を把握し、入居後の居室環境整備に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を中心に現状の把握に努め、利用者様の有する力を十分に発揮した支援を行うことができるか振り返り、実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態観察を行い、小さな変化にも職員間で共有、それに基づき課題やケアについて検討している。それらに沿いながらニーズを把握し、長期目標を見据えた介護計画の作成に努めている。	職員は2名の利用者を担当し「包括的自立支援プログラム」を用いADL、排泄、食事、入浴コミュニケーション等、7項目のチェックとフォローを6ヶ月に1回行い、1ヶ月に1回のモニタリングにも繋げている。家族の意向は窓越し面会時や電話で伺いプラン作成に加味し、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月でプランの見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容に基づいたケース記録に努めている。 日々の介護での気づきなどもケース記録で共有できるようにし、介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設からの専門職の意見や情報提供を参考に職員がどう支援できるのか検討している。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームには、温泉が出る為、入浴を楽しみにしている利用者が多い。温泉という事で元気がでるという発言もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や定期的な薬剤師の健康管理は継続支援している。かかりつけ医は夜間の急変時に対応可能となっている為、より安心な医療を提供できている	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、大半のの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続し月1～2回の往診で対応し、若干名の利用者は家族対応の受診で対応している。合わせて隣接の老人保健施設の看護師が日々の健康管理とともに医師との連携をとっている。歯科については必要に応じ家族が付き添い、受診に対応している。また、薬剤師による薬剤指導も引き続き行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は隣接する特別養護老人ホームと介護老人福祉施設の看護師の応援体制があり、夜間も看護師が居るときがあるため、いつでも相談できる状態となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室の担当者とは、連絡を密にし、退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、3名の利用者の看取り介護を実施している。ご家族、医療とのICを実施した際、ご家族の希望が聞かれている	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し家族の意向を確認するようにしている。食事や入浴が難しい状況になり終末期に到った時には家族、医師、ホームで医師の元に伺い話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、看取り支援に取り組んでいる。法人の特別養護老人ホームが隣接されていることから、家族の意向に合わせ住み替えも含めた支援に繋げている。1年以内に1名の看取りを行い、現在も数名の利用者の看取り介護中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに基づき、指導をしている。主治医への連絡と指示からの一連の動きは理解できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は継続している。新人職員は通報から消火訓練まで実際に行う事で学んでいる。	春と秋の年2回防災訓練を行っている。春には消防署員参加の下、夜間の火災想定防災訓練を行い、水消火器を使つての消火訓練、地震を想定しての避難訓練、通報訓練、スマートフォンの一斉配信による緊急連絡網等の確認を行ったという。秋にはホーム単独で建物、利用者の状況を確認し、利用者を全員食堂まで移動しての避難訓練を行い、防災へ備えようとしている。また、複合施設として地域との防災協定が結ばれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護福祉士が10名おり、専門職としてのケアを行っている。	言葉遣いには特に気配りをし「です」「ます」言葉の徹底を図り、ゆっくり、ハッキリと優しく声掛けをするようにしている。また、「親しき中にも礼儀あり」で、介護職員として常識をわきまえ馴れ合いにならないよう気を付けている。合わせてトイレ介助の際にはドアは必ず閉めるよう徹底している。更に、申し送りの際利用者の前では他の利用者の話し合はしないよう心掛けている。呼び掛けは基本的には苗字を「さん」付でお呼びしている。プライバシー保護の研修会を年2～3回オンラインで行い意識を高め、一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく想いや希望を表現できる関係性の構築に努めながら、利用者からの申し出があった際は、解決できる糸口まで、本人が納得いくように話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、予定日であったとしても、本人が乗り気でなければ、無理強いはいしないように、日時を変えて声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	翌日着る洋服は前夜に利用者と一緒に選ぶようにしている。 スキンケアを大切にされている方もおられ、お好みの化粧品をお使い頂けるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コンビニエンスストアから食べたい物や飲み物を取り寄せし、食事時間が楽しみとなるように工夫している。ご本人の調理方法等聞きながら盛り付けを行っている	殆どの利用者は自力で食事が出来る状況となっている。法人の管理栄養士が季節感や行事を意識して立てた献立を複合施設の厨房で調理している。お菓子、飲み物等は希望を聞き、コンビニエンスストアより購入し楽しいひと時を過ごしている。また、複合施設として給食委員会があり委員会希望を出し合い献立に織り込み利用者の希望に沿えるよう取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染拡大前は定期的に外食に出掛けいたが現在は自粛状態が続き残念な状況が続いており、収束後には計画を立て外食に出掛ける予定であるという。	

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事や水分摂取量を把握しながら、食事量の低下が見られている際は、栄養補助食品で補っている。栄養補助食品が必要な場合であってもご本人の嗜好に合ったもので、食事の楽しみを継続できるよう対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯間ブラシやマウスウォッシュを取り入れ、口腔内の衛生管理に努めている。 口腔内の状態のよっては歯科医師の診察を受けられるよう態勢を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、能力に応じた排泄介助に努めている。 お一人でできる範囲、声掛けや介助が必要な範囲を見極めながらご本人の羞恥心などに配慮した支援に努めている。	自立している方は数名で、一部介助の方が三分の二強名、全介助の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、排泄表も参考に朝晩の定時誘導と合わせ様子を見てトイレに誘導するようにしている。排便についてはお茶、乳製品を中心に1日500cc～1,000ccの水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルト、牛乳などご本人の好みを物を取り寄せ食している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態やその日の気分にあわせて、午前、午後いつでも入浴対応が取れるように対応している。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。浴室には24時間対応の温泉が引かれておりホームにいながら温泉気分が楽しめるようになっている。週2回、入浴を行い、入浴拒否の方もいるがタイミングを見て入浴していただくよう取り組んでいる。入浴後にはお茶やジュース類を飲み、寛げるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で入眠できない利用者はフロアで休息できる環境を整えている。 衣類や室温調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人に対しての内服確認は3名の職員が対応している。薬剤管理指導を受けている為、いつでも相談できる状況はできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後には気の合う利用者同士でコーヒーなど飲みながら歓談している。しばらく世間話をすると各自居室に入り、一人の時間を楽しんでいる		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出支援はできていないが、桜の時期は施設周辺の散歩をし、記念撮影をしたり、玄関先でゆっくりと過ごす時間をもつ事はできた。	外出時、独歩の方が三分の一、車いす使用の方が三分の二という状況である。新型コロナ禍が続き現在は外出レクリエーションは自粛状況が続いているが、複合施設の周り一面の桜の木々に囲まれているので春の桜から秋の紅葉まで天気の良い日には散歩を楽しむ季節感を味わっている。合わせて施設前にはベンチが置かれ、話を楽しみながら外気浴も楽しんでいる。新型コロナ収束後にはまた以前のように計画を立て、善光寺詣りや季節に合わせたドライブ等に出掛ける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人には、家族からお金を預かっている旨を伝え、欲しい物や食べたい物を聴き希望に沿う様に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話ををお持ちの方が3名いらっしゃる。ラインなど慣れない操作もあり、必要に応じ操作のお手伝いをしている。 ホームの電話での通話を希望されているご家族もおられ、希望に沿い対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房とエアコンを併用し、室温を保っている。 30分に1回、換気を実施。清掃はなるべく早期に済ませ、清潔な環境で食事できるように配慮している。	玄関を入ると利用者の「ハリ絵」作品が飾られている。一日の大半を過ごす食堂兼リビングには3ヶ所に食事テーブルがゆったり感覚を取って置かれ、利用者のぬり絵等の作成の場となっている。また、玄関前にはベンチと季節の花が植えられたプランターが置かれ、寛ぎのスペースとなっている。空調はエアコンと床暖房が設置されており快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の雰囲気やいつのまにか利用者同士の話しが弾み、和やかになっている際は、普段とは違う飲み物を提供し、ゆったりとした時間を過ごせるように支援した		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	編み物を趣味をしている利用者は、居室にテーブルを置き、テレビを観ながら、楽しんでいる。ご自分で淹れたお茶を飲むことを習慣とされている利用者には、電気ケトルや急須など必要な物をそろえゆっくりとお茶を楽しめる環境に整えている。	整理整頓が行き届いた各居室には洗面台とクロゼットが完備され暮らしやすい造りとなっている。家族と相談の上、テーブル、イス、ハンガーラック、テレビ等が自宅から持ち込まれ、自分の生活の場が作られている。エアコンと床暖房が完備され年間を通し快適に暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での動きを把握するため、空間センサーを使用し訪室している。その時に必要な援助をし、危険な状況とならないように努めている。		